

学 位 論 文 要 旨

氏 名 高橋 慧

題 目 保育実践における造形と音楽を結び付けた表現活動の定位と展開

学位論文要旨（和文2,000字又は英文1,000語程度）

「風景を見て絵を描く」「伴奏に合わせて歌を歌う」「踊りを踊る」というように、造形表現、音楽表現、身体表現、言語表現といった各表現領域内で行われる活動は、人の表現活動として一般的によく知られている。一方で、「音のイメージを絵に描く」「絵を描きながら物語を語る」等、1つの活動に複数の表現領域が重なり合って展開される表現が存在する。表現領域が完全に独立せず、それら複数の領域が結び付いた状態で表現が行われる特性を見出せる。このような表現活動は、子どもや芸術家に見出され、本論では「複数表現領域を結び付けた表現活動」として論じる。子どもの表現活動が表現領域間の相互作用を含むことについての子ども理解が進んできている中、幼児教育・保育におけるこの分野の研究の位置付けはより重要になると考えられるが、一方で、先行研究が少ない分野であり、保育現場を対象とした研究の必要性や、量的研究の不足が認められる。

そこで本論では、幼稚園や保育所等の保育現場における乳幼児期の子どもの表現活動について、上述した複数表現領域を結び付けた表現活動という主題から接近し、造形と音楽の結び付きを中心としながら、子どもの表現及び保育者による表現実践の実態を明らかにする。また、子どもの芸術活動を豊かにし得る1つの表現形態として、造形と音楽を関連付けながら展開する保育実践の望ましい在り方について探ることを目的とする。保育現場に勤務する現職の幼稚園教諭に対する広範囲の質問紙調査を行い、そのデータに基づいて論述を展開する。

第1章では、本論文の背景と先行研究概観を示しながら、研究上の課題を抽出する。第1節では、本論の目的及び研究課題として、[1]子どもの表現及び園での保育実践における複数表現領域を結び付けた表現活動の位置付けの整理、[2]保育における造形と音楽を結び付けた表現活動に着目する妥当性の検討、[3]造形と音楽を結び付けた表現活動が子どもに与える影響に関する検討と子どもの自由遊びに見る実態把握、[4]造形と音楽を結び付けた表現活動に関する実践案や保育者の特性に関する検討、の4項目を提示する。第2節では、児童期の芸術活動における事例と、芸術家の表現過程における事例を取り上げ、広く人の芸術活動における表現領域の結び付きの位置付けについて論じる。第3節では、複数表現領域を結び付けた子どもの表現活動の事例を概観する。また、『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』等への着目や、保育関係者に焦点を当てた先行研究を示す。第4

節では、複数の表現領域を結び付ける子どもの活動と、その背景にある発達の特徴について取り上げる。第5節では、本論で扱う調査データ（質問紙調査）について述べて研究の方法を説明するとともに、本論の章立てを示し全体の構成を説明する。

第2章では、造形と音楽の結び付きを主題として、子どもの表現活動や保育者の認識を示す。第1節では、造形・音楽・身体・言語表現の4領域の中でも、造形と音楽の結び付きに研究上の焦点を当てる必要性を示す。第2節では、造形と音楽を結び付けた表現活動が子どもに与える影響について、肯定的な認識が多く保育者に見られる状況を明らかにする。第3節では、子どもの自由遊びにおける、造形と音楽の結び付きの出現について取り上げる。子どもによる自由遊びにおいて、造形と音楽を結び付けた表現活動の中で、造形活動に含まれるものあるいは音楽活動に含まれるものとして何が出現しているのか、それらの活動にはどのような種類があるのかについて明らかにする。第4節では、第3節の内容に引き続き、造形活動と音楽活動はどのように組み合わさっているのか、そして、結び付きやすい両者の組み合わせはどのような活動であるのかについて明らかにする。

第3章では、保育者による設定保育における造形と音楽を結び付けた保育実践を取り上げる。第1節では、造形と音楽の結び付きは、設定保育においてどのような実践として保育者によって展開され得るのかを、保育者から集計した実践案の類型化とともに示す。第2節では、造形と音楽を結び付けた保育実践を行う上で、造形が得意な保育者が向いているのか、音楽が得意な保育者が向いているのか等の観点から、実践実現性の高い保育者について示す。第3節では、設定保育において保育者に求められる保育実践上の条件が、どのようなものであるかを明らかにする。第4節では、第3節の内容に引き続き保育実践上の条件に焦点を当て、造形と音楽の結び付きに対する実践の見通しが高い保育者と、実践の見通しが低い保育者を比較しながら、両者が述べる実践上の条件の違いについて明らかにする。

第4章では、得られた研究成果を総括し、今後の研究課題及び展望を示す。第1節では、複数表現領域を結び付けた表現活動が、芸術活動において1つの表現形式として成立し得る意義のある活動であると考えられることを総括する。第2節では、保育者に対する調査に基づき、造形と音楽を結び付けた表現活動に見出せる価値や意義について振り返る。また、子どもの自由遊びにおいて、多方面での造形活動と音楽活動の結び付きが見られる実態について振り返る。第3節では、造形と音楽を結び付けた表現活動として、実現可能な多様な実践案のバリエーションが示されたことや、造形・音楽それぞれに対する保育者の実践上の自信との関連性、保育実践を展開する上での諸条件について総括する。第4節では、今後の研究課題と展望について提起する。

---

---

---

---

---

---

---

---